

位置図

福岡県久留米市、筑後市、大川市、八女市、柳川市、大牟田市、みやま市、大木町



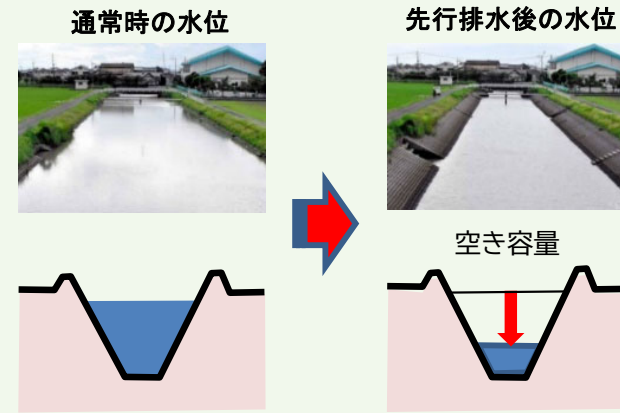
取組内容・効果

- 本流域では、近年頻発する豪雨等による湛水被害の軽減を目的として、CAPS(先行排水情報共有システム)を導入し、広域連携によるクリークの先行排水に取り組んでいる。
- CAPSは、筑後川下流域に広がる7市1町を対象に、気象、潮位、排水施設の操作状況等の情報をリアルタイムに配信するシステムであり、大雨が予想される場合には、CAPSを活用して関係自治体や土地改良区、排水施設の管理者が迅速に連携し、事前にクリークの水位を下げる計画的な先行排水を実施。
- 令和5年7月の梅雨前線豪雨では、CAPSによる広域的な先行排水の実施により、約850万 m^3 の洪水調節容量を確保し、農地の湛水被害及び流域の氾濫被害等の軽減に大きく寄与した。

取組地域の概要

- (一級水系)筑後川水系筑後川下流域
- 平成29年の九州北部豪雨以降、流域内で湛水被害が頻発化
- 令和2年7月豪雨では、久留米市、大牟田市などで大規模冠水が発生
- 同年10月、本流域の市町等で構成される筑後川下流域農業開発事業促進協議会が中心となり、国、県、水機構と連携して、国営、県営クリークにおける先行排水の検討を開始、令和3年7月から試行実施
- 令和3年3月に策定した筑後川流域治水プロジェクトにクリークの先行排水を位置付け(筑後川水系流域治水プロジェクト2.0でも継続)

先行排水のイメージ



令和5年7月梅雨前線豪雨

約850万 m^3 の洪水調節容量の確保

クリークによる先行排水の洪水調節容量は、福岡ドーム約5個分に相当



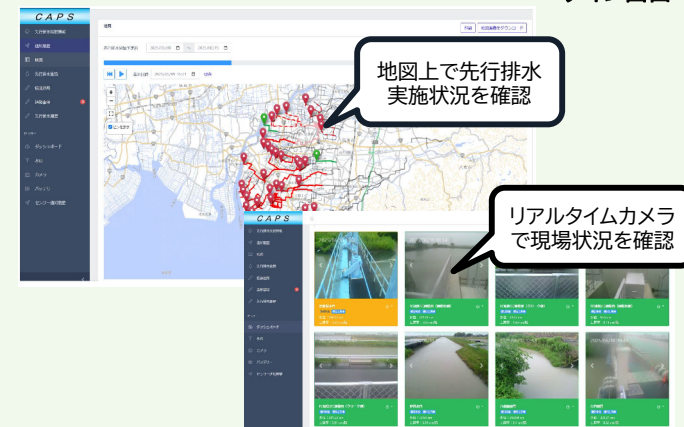
※福岡ドーム(ドーム容積176万 m^3 /個)

CAPS (先行排水情報共有システム)

- 登録された関係機関の職員間で、大雨警報の可能性、24時間最大雨量、潮位、河川状況等の情報をパソコンやスマートフォンで共有。
- 各市町が先行排水実施状況を入力することで、上流から下流まで相互に取組状況の共有・確認が可能。



ログイン画面



地図上で先行排水実施状況を確認

リアルタイムカメラで現場状況を確認